

環境保全ニーズ応える印刷インキ

国内需要いぜん減少続く

「GOTO」で持ち直し？

印刷インキの国内需要はいぜんとして減少が続いている。経済産業省の化学工業統計によると、2019年の生産量は前年比4・8%減の31万7573ト、出荷量は同4・8%減の35万7021トと、それぞれ9年連続、6年連続の減少。出荷金額も同3・4%減の2765億円となった。

印刷インキの国内需要はいぜんとして減少が続いている。経済産業省の化学工業統計によると、2019年の生産量は前年比4・8%減の31万7573ト、出荷量は同4・8%減の35万7021トと、それぞれ9年連続、6年連続の減少。出荷金額も同3・4%減の2765億円となった。

印刷インキの国内需要はいぜんとして減少が続いている。経済産業省の化学工業統計によると、2019年の生産量は前年比4・8%減の31万7573ト、出荷量は同4・8%減の35万7021トと、それぞれ9年連続、6年連続の減少。出荷金額も同3・4%減の2765億円となった。

印刷インキの国内需要はいぜんとして減少が続いている。経済産業省の化学工業統計によると、2019年の生産量は前年比4・8%減の31万7573ト、出荷量は同4・8%減の35万7021トと、それぞれ9年連続、6年連続の減少。出荷金額も同3・4%減の2765億円となった。

ことば避けられそうになる。大手インキメーカーは、国内需要は今後大きな伸びを期待できないことから、海外展開を強化している。中国やアジアに加え、インド、中東、アフリカなどへ進出し、販路を固めている。また、世界的な環境保全のニーズに応える製品に注力。脱プラスチックの気運が高まるなか、生物由来の資源（バイオマス）から成分を抽出して製造するインキ、紙製品向けのコート剤・バリア剤などの開発を進めている。

ウメト インフォメーション

2020年 10月 13日 担当 岩崎

平版インキ

オフ用UVインキ期待

平版インキ（オフセット印刷インキ）はホスタ、書籍、チラシ、カタログなど、主に紙の印刷に用いられている。かつて印刷インキのなかで最大の構成比を占めていたが、紙印刷が減少したことで市場は縮小。出荷量は前年がピークで、それ以降は減少を続けている。19年の平版インキの生産量は8万7836ト（前年比8・1%減）、出荷量は9万9214ト（同7・4%減）、出荷金額は627億1100万円（同6・3%減）と減少。新型コロナウイルス感染症拡大が必要低下に拍車を掛け、今年上期（1～6月）は生産量、出荷数量、出荷金額とも30%以上の大幅減となっている。

平版インキの需要減少は、情報伝達のデジタル化という社会構造的なもので、今後も大きな回復は見込みにくい。そのなかでも明るい材料はオフセット用途のUVインキの需要が増加傾向にあること。UVインキは化学工業統計では、その他インキに分類されているが、オフセット用途のUVインキの生産量・出荷量は1万ト強あるとされ、乾燥スピードなどの利点から需要は拡大傾向にある。

新聞インキ

今上期の生産量18.3%減

印刷インキのなかで最も減少幅が大きいのが、新聞インキ。新聞のなかでも発行部数が多い一般紙とスポーツ紙の発行部数合計は、10年に5000万部、18年に4000万部を割り、19年は3781万部にまで落ち込んだ。新聞発行部数の減少は折り込みチラシの減少にもつながっており、平版インキの需要減少にも

大きな影響を及ぼしている。新聞インキの19年の生産量は3万2016ト（前年比12・5%減）、出荷量は3万921ト（同14・8%減）、出荷金額157億5600万円（同14・7%減）の2桁減。生産・出荷量は06年のピーク時の約半分の水準だ。

今年上期は、減少に拍車がかかり、生産量が1万3244ト（前年同期比18・3%減）、出荷量が1万2490ト（同19・5%減）、出荷金額が63億2000万円（同19・9%減）と、大幅な減少となっている。



樹脂凸版インキ

通販段ボール向け伸び

樹脂凸版インキは段ボールのほか、紙袋や包装紙などの印刷に使われる。包装用が中心であることから情報伝達のデジタル化による影響は少なく、需要は比較的安定している。

樹脂凸版インキの需要も堅調に推移していたが、景気減速の影響から19年は減少となった。生産量は2万1260トン（前年比2・0%減）、出荷量は2万2100トン（同3・0%減）、出荷金額は165億800万円（同4・0%減）と、いずれも2年連続の減少となった。

今年上期は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受け、生産量が9443トン（前年同期比9・3%減）、出荷量が1万7000トン（同7・8%減）、出荷金額が75億円（同6・9%減）と減少。マイナズ幅も大きくなっている。

いわゆる巣ごもり需要で、一般家庭向けの通販用段ボール需要は増えたものの、飲食店や業務用の食材や工業用段ボール需要が低下したとみられる。

樹脂凸版インキは年後半からは回復に向かうと思われるが、通年で前年を下回ると見られる。

グラビアインキ

巣ごもりで包装用堅調

グラビアインキはシヤや発色性、速乾性に優れるなどの特徴を持ち、主に柔包装用フィルム印刷に用いられる。菓子や食品、日用品、化粧品などのパッケージのほか、聖紙など建材の印刷など用途は幅広い。用途先の9割以上を占める食品パッケージは、包装の小型化が進んだことで印刷面積が増加し、グラビアインキの需要も拡大基調にあったが、その伸びも鈍化している。

グラビアインキは19年から生産量、出荷数量、出荷金額、すべてで平板インキを上回り、インキ種類別で最大の構成比を占めるようになった。

19年は生産量が12万4415トン（同2・3%減）、出荷量が15万3030トン（同2・7%減）、出荷金額が807億700万円（同2・4%減）といずれも前年を下回った。

今年上期も生産量が5万9998トン（前年同期比3・4%減）、出荷量が7万2632トン（同1・6%減）、出荷金額が390億5200万円（同1・9%減）と減少した。

巣ごもり需要から食品包装向けは堅調だったが、そのほかの印刷用途が大きく落ち込んだもようだ。

金属印刷インキ

アルミ缶比率向上受け

金属印刷インキは、金属表面に印刷を施すために用いられるもので、アルコール飲料やコーヒー、清涼飲料水など飲料缶の印刷向けが大半を占める。ピークの1994年には4万7000トンの出荷量があったが、P&Gやネスレをはじめ、容器の多様化が進んだことや、印刷フィルムをスチール缶に貼る方法が普及したことなどで金属印刷インキの需要は減少し、現在の国内需要は最盛期の3分の1程度にまで縮小している。

19年の金属印刷インキの生産量は1万6090トン（前年比22・3%減）、出荷量は1万7633トン（同3・0%減）と3年連続の減少。出荷金額は113億2700万円（同1・0%減）と減少した。20年上期は減少幅がさらに拡大している。

金属印刷インキの需要はかつての需要量に戻ることは期待できないが、これから先は大きな減少はないと見られる。缶コーヒーなどで、金属印刷インキでの印刷が必須のアルミ缶の比率が高まっていること、また、高精細なアルミ缶への印刷技術が開発されたことも需要の回復を後押しする。

金属印刷インキの需要はかつての需要量に戻ることは期待できないが、これから先は大きな減少はないと見られる。缶コーヒーなどで、金属印刷インキでの印刷が必須のアルミ缶の比率が高まっていること、また、高精細なアルミ缶への印刷技術が開発されたことも需要の回復を後押しする。

金属印刷インキの需要はかつての需要量に戻ることは期待できないが、これから先は大きな減少はないと見られる。缶コーヒーなどで、金属印刷インキでの印刷が必須のアルミ缶の比率が高まっていること、また、高精細なアルミ缶への印刷技術が開発されたことも需要の回復を後押しする。

金属印刷インキの需要はかつての需要量に戻ることは期待できないが、これから先は大きな減少はないと見られる。缶コーヒーなどで、金属印刷インキでの印刷が必須のアルミ缶の比率が高まっていること、また、高精細なアルミ缶への印刷技術が開発されたことも需要の回復を後押しする。

金属印刷インキの需要はかつての需要量に戻ることは期待できないが、これから先は大きな減少はないと見られる。缶コーヒーなどで、金属印刷インキでの印刷が必須のアルミ缶の比率が高まっていること、また、高精細なアルミ缶への印刷技術が開発されたことも需要の回復を後押しする。

金属印刷インキの需要はかつての需要量に戻ることは期待できないが、これから先は大きな減少はないと見られる。缶コーヒーなどで、金属印刷インキでの印刷が必須のアルミ缶の比率が高まっていること、また、高精細なアルミ缶への印刷技術が開発されたことも需要の回復を後押しする。

金属印刷インキの需要はかつての需要量に戻ることは期待できないが、これから先は大きな減少はないと見られる。缶コーヒーなどで、金属印刷インキでの印刷が必須のアルミ缶の比率が高まっていること、また、高精細なアルミ缶への印刷技術が開発されたことも需要の回復を後押しする。

好調市場もコロナ影響

その他インキは紫外線硬化するUVインキやスクリーンインキ、半導体関連のレジストインキなど特殊工業用途のインキが中心。減少が続く国内印刷インキ市場にあって需要は好調。単価が高い高付加価値製品が多く、17年から出荷金額がグラビアインキを抜いて種類別トップになっている。

好調を維持。出荷金額は895億200万円（同0・1%減）と横ばい。今年上期は生産量が1万8101トン（前年同期比11・3%減）、出荷数量が1万8141トン（同11・3%減）とそれぞれ減少。出荷金額も420億1300万円（同1・2%減）と前年をやや下回った。

今年に入ってから落ち込みは新型コロナウイルス感染症拡大で、主要な用途である自動車や電気・電子機械関連の需要が低迷したことが響いた。

今年に入ってから落ち込みは新型コロナウイルス感染症拡大で、主要な用途である自動車や電気・電子機械関連の需要が低迷したことが響いた。

ウメト インフォメーション

2020年 10月 13日 担当 岩崎

〔印刷インキの生産・出荷実績〕

(単位：生産・出荷)、金額百万円、前年比%)

	生産	前年比	出荷	前年比	出荷金額	前年比
平版インキ						
2016年	107,471	96.3	120,834	95.1	75,554	92.6
2017年	100,904	93.9	112,963	93.4	70,570	93.4
2018年	95,549	94.7	107,129	94.8	66,883	94.8
2019年	87,836	91.9	99,214	92.6	62,711	93.7
樹脂凸版インキ						
2016年	21,850	99.3	22,410	98.0	17,084	98.2
2017年	21,921	100.3	23,119	103.1	17,546	102.7
2018年	21,673	98.9	22,882	99.0	17,184	97.9
2019年	21,260	98.0	22,210	97.0	16,508	96.0
金属印刷インキ						
2016年	11,399	101.8	13,523	100.2	12,094	100.6
2017年	11,210	98.3	13,309	98.4	12,448	102.9
2018年	10,856	96.8	13,020	97.8	11,435	91.9
2019年	10,609	97.7	12,633	97.0	11,327	99.0
グラビアインキ						
2016年	124,826	102.5	151,010	96.4	81,994	95.9
2017年	126,395	101.3	153,106	101.3	82,339	100.4
2018年	127,272	100.7	154,416	100.9	82,701	100.4
2019年	124,415	97.7	150,303	97.3	80,777	97.6
その他インキ						
2016年	38,560	103.5	40,055	103.9	79,485	107.7
2017年	41,769	108.3	42,193	105.3	88,394	111.2
2018年	41,548	99.5	41,133	97.5	89,558	101.3
2019年	41,437	99.7	41,740	101.4	89,502	99.9
新聞インキ						
2016年	42,807	96.5	43,005	91.8	22,864	90.0
2017年	39,765	92.9	39,220	91.1	20,384	89.1
2018年	30,567	92.0	36,284	92.5	18,456	90.5
2019年	32,016	87.5	30,921	85.2	15,756	85.3
合計						
2016年	346,913	99.7	390,837	96.4	289,077	97.7
2017年	341,964	98.6	383,910	98.2	291,683	100.9
2018年	333,465	97.5	374,864	97.6	286,219	98.1
2019年	317,573	95.2	357,021	95.2	276,583	96.6

(資料：経済産業省「化学工業統計」)

〔2020年1～6月の印刷インキ生産・出荷(販売)実績〕(単位：)、金額百万円、前年同期比%)

▷生産

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	1～6月 合計	前年 同月比
印刷インキ合計	23,605	23,283	26,085	26,269	18,636	21,149	139,027	87.9
平版インキ	6,249	6,295	6,980	6,147	3,499	3,895	33,065	73.9
樹脂凸版インキ	1,472	1,432	1,741	1,917	1,415	1,466	9,443	90.7
金属印刷インキ	801	807	926	1,002	783	854	5,173	95.4
グラビアインキ	9,377	9,327	10,460	11,290	8,882	10,660	59,998	96.6
その他インキ	3,156	3,207	3,471	3,339	2,453	2,475	18,101	88.7
新聞インキ	2,550	2,215	2,504	2,572	1,604	1,790	13,244	81.7

▷出荷(販売)数量

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	1～6月 合計	前年 同月比
印刷インキ合計	25,576	26,976	29,377	28,862	20,975	24,271	156,037	89.2
平版インキ	6,519	7,353	7,558	6,392	3,861	3,070	36,753	76.6
樹脂凸版インキ	1,525	1,551	1,866	2,916	1,419	1,623	10,090	92.2
金属印刷インキ	947	1,065	1,051	1,147	848	962	6,021	94.1
グラビアインキ	11,142	11,548	13,001	14,002	10,844	12,095	72,632	98.4
その他インキ	3,133	3,338	3,547	3,189	2,318	2,616	18,141	88.7
新聞インキ	2,310	2,120	2,354	2,116	1,685	1,905	12,490	80.5

▷出荷(販売)金額

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	1～6月 合計	前年 同月比
印刷インキ合計	20,762	21,269	23,803	22,609	16,534	19,109	124,086	92.3
平版インキ	4,214	4,693	4,870	4,086	2,521	3,302	23,686	78.2
樹脂凸版インキ	1,132	1,165	1,406	1,508	1,071	1,233	7,515	93.1
金属印刷インキ	856	921	963	1,065	774	907	5,486	94.2
グラビアインキ	6,066	6,245	7,000	7,493	5,786	6,462	39,052	98.1
その他インキ	7,332	7,178	8,373	7,370	5,526	6,234	42,013	98.8
新聞インキ	1,159	1,065	1,189	1,085	853	969	6,320	80.1

(資料：経済産業省「化学工業統計月報」)

引用記事

日経新聞

毎日新聞

化学工業日報

燃料油脂新聞

印刷用紙アジアで一段安

10月

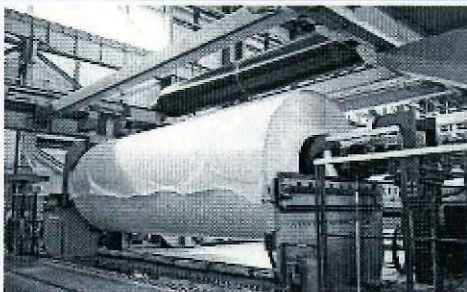
前月比3% 教育・観光、回復鈍く

パンフレットなどに使う印刷用紙がアジア市場で一段と値下がりした。上質紙と上質コート紙はともに前月比で3%安い。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で急減した印刷用紙の需要は持ち直しているものの、回復ペースが鈍い。日本からの輸出も低調で、国内の紙業界の収益性は厳しいままだ。

日本の輸出も低調

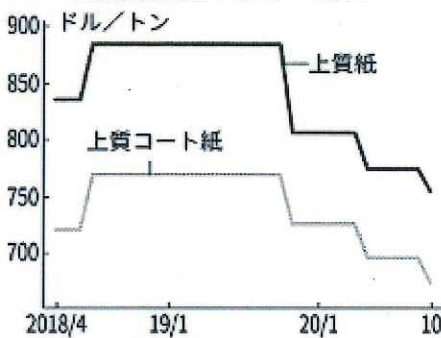
印刷用紙で書籍などに使う上質紙の香港向け価格(大口需要家用)は1トン710〜800ドルで、9月と比べて20ドル(約3%)下落した。2019年秋の直近高値から15%安く

なった。雑誌やカタログ向けの需要が振るわなかった。紙商社によると、現在の価格水準ではアジアのメーカーが利益を上げるのが難しくなっている。アジアの製紙会社が印刷用紙の値上げに動き出している。日本の製紙会社も値上げの動きを注視しており、「輸出価格の引き上げを検討している」とい



印刷用紙のアジア輸出はまだ厳しい(国内の印刷用紙工場)

印刷用紙はアジアで安い



(注)香港向け輸出価格

ない。電子書籍が広がっているあおりで一般書籍向けも低迷している。タイなどでは観光客の減少を受けて観光カタログ向けも鈍い。紙商社によると「全体的に需要は戻しているが回復ペースが鈍く、需要家の買い意欲は盛り上がりを感じていない」とい

る。日本紙類輸出組合(東京・中央)によると、上級印刷用紙の1〜8月の輸出量は約9万トンで前年同期比2割強下回っている。コート紙も約24万7千トンと同2割弱少ない。需要の不振に加えて、販売価格の下落で日本のメーカーの輸出意欲は乏しくなっている。

一方、ここに来て「市場では下げ止まり感が出ている」(日本の紙商社)との声も聞かれ始めた。クリスマス向けに玩具や家電製品の需要回復が見込まれ、付随するカタログや説明書向けに需要が回復するとの見方がある。米国の製紙会社が生産ラインを印刷用紙用から他の紙製品用に切り替える動きも出ている。需要回復と供給の絞り込みへの期待が下げ止まり感につながっている。

下落が続いていた原料のバルブ価格に下げ止まり感が出ているのも背景だ。バルブは中国向け需要の回復とバルブメーカーの減産で荷余り感が後退している。北米のバルブメーカーは値上げに動き出している。

紙商社によると、現在の価格水準ではアジアのメーカーが利益を上げるのが難しくなっている。アジアの製紙会社が印刷用紙の値上げに動き出している。日本の製紙会社も値上げの動きを注視しており、「輸出価格の引き上げを検討している」とい